

課外活動が性格に及ぼす影響について

金月 大樹 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 森川 みえこ

キーワード：課外活動 性格 人格形成

1. 緒言

大学における課外活動は、技術の向上だけでなく主である学業とともに人間形成の場として意義を持つものである。多様化・複雑化した現代社会を生きていくためには、人間的成長を遂げることが不可欠であり、社会人育成をも担う大学において、課外活動も極めて重要な教育の場であると考えられる。小林(1986)のスポーツマンの性格によると、バレーボールの性格特性は、1人1人の役割が決まっており、協調性や結束力が必要であるとされている。一方で、レスリングの性格特性では、徹底的に自己をいじめぬくハードな訓練が要求されるため、強固な精神力や諦めない気持ちが要求されるとされている。このようにスポーツには、各スポーツの性格特性があるとされている。Bernard Williams(1981)は、自己あるいは人格が性格の変化に影響すると定義している。そこで本研究では、人格形成に影響があると考えられる課外活動を経験することで、性格に与える影響について検討することを目的とする。

2. 研究方法

本研究の対象者は、B大学男28名女22名バレーボール部員計50名で、西田の心理的 well-being の尺度6因子のカテゴリーで43項目の質問紙アンケートを「5.よく当てはまる」から「1.全く当てはまらない」の5段階評定で作成した。入部当初の気持ちに振り返った場合と課外活動を経験しての現在の気持ちの2回実施し、有意差検定を行った。

3. 結果と考察

今回の調査では、有意差のみられる項目は見られなかった。入部当初の各学年の因子別平均値を表1に、課外活動を経験しての各学年の因子別平均値を表2に示した。入部当初と課外活動を経験しての結果を比較すると、人格的成長については、入部当初2回生が4.39で他の学年より高く、課外活動を経験した後では、4回生が4.56と他の学年より高かった。人生における目的については、入部当初2回生が3.77で他の学年より高く、課外活動を経験した後では、1回生が3.91と他の学年より高かった。自律性については、入部当初4回生が3.42で他の学

年より高く、課外活動を経験した後では、4回生が3.65と他の学年より高かった。自己受容については、入部当初3回生が3.28で他の学年より高く、課外活動を経験した後では、1回生が3.15と他の学年より高かった。環境制御力については、入部当初3回生が3.58と他の学年より高く、課外活動を経験した後では、3回生が3.50と他の学年より高かった。積極的な他者関係については、2回生が3.80と他の学年より高く、課外活動を経験した後では、1回生が3.75と他の学年より高かった。入部当初と課外活動を経験しての結果を学年別にみると、1回生は、課外活動後人格的成長が0.08、人生における目的が0.27、環境制御力が0.07、積極的な他者関係が0.11高くなった。2回生と3回生は、課外活動後全ての項目で低くなっていた。4回生は、課外活動後全ての項目で高くなっていた。しかし、3年前の記憶を遡っての結果であるため信頼できるものとは言いがたい。

表1. 入部当初の各学年の因子別平均値

	1回生	2回生	3回生	4回生
人格的成長	4.33	4.39	4.08	4.36
人生における目的	3.64	3.77	3.55	3.35
自律性	3.39	3.24	3.18	3.42
自己受容	3.15	3.04	3.23	3.03
環境制御力	3.39	3.50	3.58	3.30
積極的な他者関係	3.64	3.80	3.39	3.41

表2. 課外活動を経験しての各学年の因子別平均値

	1回生	2回生	3回生	4回生
人格的成長	4.41	4.28	4.05	4.56
人生における目的	3.91	3.63	3.34	3.58
自律性	3.35	3.17	3.18	3.65
自己受容	3.15	3.06	3.14	3.05
環境制御力	3.46	3.43	3.50	3.33
積極的な他者関係	3.75	3.73	3.27	3.56

4. 結論

1回生は、1年間ではあるが課外活動を通して性格に若干の影響が認められる。2回生3回生は、全ての項目で低く中間的立場や部員の考え方に相違点があると考えられる。本研究では、入部前の気持ちを思い出して回答してもらったが、正確な結果を出すためには、運動系、文化系に属する様々な課外活動を取り上げ、入部当初の学生と課外活動を経験している学生を対象とすることが望ましいと考える。

5. 引用参考文献

Bernard Williams(1981)「人格、性格、道徳」

西田裕紀子(2000)「成人女性の多様なライフスタイルと心理的 well-being に関する研究」